

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272100686		
法人名	社会福祉法人 つがる市社会福祉協議会		
事業所名	グループホーム ゆうあいの里		
所在地	〒038-3302 青森県つがる市豊富町屏風山1-377		
自己評価作成日	令和4年11月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	令和4年11月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームゆうあいの里は特別養護老人ホームと併設されており、利用者同士の交流や緊急時の連携が図られています。近隣には市民公園・認定こども園・物産館があり、利用者は市民公園で遊ぶ子供たちを眺め癒されたり、散歩や買い物に出かける事ができ自然環境に恵まれています。また、地元の老人クラブや各種団体の慰問や行事の招待もあり、地域交流が盛んに行われているため、地域の一員としての繋がりを持ち有意義に過ごせています。嘱託医による回診や歯科医の往診により健康面でも不安なく生活できるよう支援しています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

近隣には商業施設や消防署があり、便宜の良いところに位置している。平成17年に市の社会福祉協議会が合併したことで、法人内で共有してサービス提供に取り組めるように理念の見直しを行っている。「利用者が地域の一員として自分らしく暮らせるように」の理念に沿って、利用者1人ひとりの尊厳を尊重し、自立した生活が送れるよう日頃のコミュニケーションを大切にして支援に取り組んでいる。併設事業所との協力体制が十分であり、緊急時の対応や利用者の日常生活における支援についても連携が図られている。コロナ禍のため外部との交流は制限しているが、感染状況に合わせて、面会を行ったりドライブを実施するなど利用者中心の生活に配慮されている。認知症を抱えながらもその人らしさを大切にしたり、些細な対応ができています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者が地域の一員として自分らしく暮らせるように」を理念に事業所内の目に留まるところに掲示し常に意識をできるように心掛けている。また、全職員が理念を共有し職員証の裏に入れて、いつでも見れるようにして毎日のケアに繋げている。	市の社会福祉協議会の合併に伴い、理念の見直しを行っている。職員は社員証と一緒に持ち歩いており確認しながら、地域で暮らす利用者のその人らしさを大切にしたいケアに取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや芸能大会への参加や認定こども園との交流を行っていた。残念ながらコロナ禍により交流できない状況であるが、こども園の園児たちが散歩がてら窓の側まで来てくれ利用者は大変喜ばれている。	感染症予防対策のため地域住民の行き来は制限している。地域の祭りがある時は、地域の方が祭りの山車を園庭へ運んで利用者へ披露してくれ、大変喜ばれた。出来る範囲での交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍により制限はあるが、面会や行事の際に家族からの質問や相談を受け助言を行っている。 また、随時電話でも受付しており、気軽に相談できるような雰囲気作りに心掛けている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に開催し、活動状況を報告して委員の方から意見や助言をいただいてサービスの向上に繋げている。現在はコロナ禍により書面会議にて開催している。	2か月に1回書面で運営推進会議を開催している。資料と一緒に意見書と返信用封筒を同封し、感想や意見を収集している。職員を労う感想等が多く、待機者について問い合わせの内容が来た時は電話で返答している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者にその都度相談したり、年2回の地域ケア会議や2ヶ月に1回の運営推進会議で意見や助言をいただきサービスの向上に繋げている。	日頃の業務で分からないことがあれば、電話で問い合わせをしている。また、近隣に出張所ができたため、直接出向いて相談することもあり、協力がとれる関係性にある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者に不穏な状況が出現した際は、その行動を止めるのではなく、受容し問題が解決して落ち着きを取り戻せるような支援方法を検討してケアを実践している。また、研修を通して自分たちの普段の支援が知らないうちに身体拘束を行っていないかを振り返りケアの改善に取り組んでいる。	委員会を設置し3か月に1回勉強会を行っている。帰宅願望のある利用者の対応など、日々の申し送りで検討し、利用者本人が納得できるような対応で支援している。マニュアルが整備されており、スピーチロックについても検討されている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的、心理的虐待がないように、研修に参加した内容を全職員に伝達して理解を深めている。 また、言葉遣いに気をつけ、お互いに声をかけ注意を払って虐待防止に努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修を通し、制度の理解と知識を得ている。また、法人本部が日常生活自立支援事業の基幹的社協となっており、専門員も配置されているため、いつでも支援できる体制ができている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書で十分な説明を行い、利用者や家族が理解し納得された上で契約の締結を行っている。その後も不明な点等には関しては随時説明し、家族との良好な関係作りを図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時は、利用者の日頃の様子を報告しながらコミュニケーションを多く持ち、意見や要望を気軽に話せる雰囲気作りをしたり、問題発生時には管理者との話し合いを持ち、それら本人、家族の意見を運営に反映できるよう努めている。	家族の面会時に要望を聞き取りし、申請物の添付書類のやりとりなど対応している。職員は地元の方が多く、家族は要望を話しやすく、なんでも相談できる関係にある。利用者からの要望は「アメ食べたい」など個人的な物が殆どですぐに対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者もしくは主任は朝の申し送りに出席して、職員の思いや提案等の意見を聞けるようにし、日々の業務がスムーズに行えるように助言している。	管理者、主任は毎朝の申し送りに出席し、職員の提案や意見を聞き取りよう努めている。備品の営繕なども随時対応し、働きやすい環境作りに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	心身に無理のかからないように勤務を組み、職員が希望した日の休みや有休が取れるように配慮している。また、職員の意見を業務に取り入れ、仕事のしやすい職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の介護技術や得手不得手を理解、把握して法人内外の研修には積極的に受講させている。 現在、コロナ禍により受講が難しくなっているが、受講時には伝達研修で全職員にフィードバックして実践に生かすよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協会の総会や研修、祭り等で交流を行い、サービスの質の向上に繋げている。現在、コロナ禍により交流は難しいが電話等で情報交換を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の生活が大きく変わらないように生活習慣や不安に感じている事や要望を受け止め、安心して生活できるように努めている。 また、日常で新たな情報を得た場合には記録し職員間で共有できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話を傾聴しながら、気軽に相談しやすい雰囲気作りに努め、要望や不安に感じる事を解決できるような説明や話し合いを行い、安心してサービスを利用できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の関係者からの情報を共有しながら、本人が本当に必要とするサービスを見極めている。また、利用前にホームを見学していただく等して、職員が関わりを多く持つ事で、馴染んでいただけるよう工夫している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	夏場、畑での野菜作りには助言をいただき、畑に草が生えてくると職員と一緒に草取りを行い、大変助かっている。 毎日の生活の中では、食器拭きや洗濯物たたみを職員と一緒に言い、良好な関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	広報の発行や電話で日頃の様子が分かるように説明している。コロナ禍の状況のため、面会は制限されているがオンラインでの面会時には本人の普段の様子を伝え、情報共有に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近くの物産館や近くの商店では顔み知りの方々に会う機会があり、馴染みの方とおしゃべり等の交流ができるよう支援している。コロナ禍のため、現在は十分な交流が図れていない。	感染予防対策の為、外部との交流は中止している。ドライブ外出時は、職員だけが車から降りて希望の物を購入している。理容院や美容院については、家族から同意を得た上で、職員が対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人、合わない人を把握している。 好き嫌いあるが、助け合い仲良くしている様子もあるので、日々の心身の状態を見極め、利用者同士が穏やかに過ごせるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設する特養に入所となって、グループホームを退所となった利用者や家族とは、お互い声掛けや挨拶をしたりと交流が図られている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から利用者個々の意向や希望を聞き出し、思いが達成できるようにミーティング等で話し合い、全職員で共有している。また、意志疎通が困難な方は行動や表情から意向や希望を把握し、家族の意見を参考にしながら検討している。	利用者一人ひとりに対する声掛けを多くし、生活パターンの把握に努めている。認知症により、うまく言葉にできない利用者については、家族や関係者からも情報を得て、自立した生活ができるように対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族より詳しく情報をいただき把握に努めている。また、職員は地元の者が多いため、利用者の生活歴や生活環境を把握しており、わずかな情報をも収集するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを把握しており、その日の心身状態等は、朝の申し送り等で話し合い、わずかな変化や可能性も見つけ出せるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思いや家族の意向を聞き、モニタリングやカンファレンスを行っている。 本人の状態や変化や家族の要望に変化が生じた場合には、介護計画の見直しをしている。	三団体方式の様式を使用し、6か月に1回定期的に見直ししている。状態変更時は随時の見直しも行っている。計画書には利用者の趣味を継続できるような内容や日常生活における役割を続けられるように支援する内容が盛り込まれており、その人らしさがある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の業務日誌には職員の気づきや利用者の状態変化やエピソード、家族の方から要望があればそれを記録し、職員間で情報を共有しながら実践したり介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の緊急な宿泊や訪問等には柔軟な対応やサービスを行っている。 また、緊急時の職員不足には、併設されている特養より看護師や介護職員の応援体制がとられている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して暮らせるように、近くにある駐在所や地元の消防団に協力体制ができています。また、地元の町内会とも防災に関する協定書を締結しており、利用者の安全を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所には嘱託医がおり、予防接種や定期的な回診、体調不良時には診ていただいている。また、本人や家族が希望される専門医への受診も支援している。	嘱託医の往診が月2回以上あり、入居時に家族へ説明の上切替している。他に専門医の受診は職員が対応し、今までのかかりつけ医への通院を継続している。利用者の状態に合わせて、院内は車椅子を使用するなど配慮されている。受診結果は毎回家族へ報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設されている特養の看護師と相談しながら、日々の健康管理を行い、病気の早期発見に取り組んでいる。また、緊急時にはすぐに駆けつけてくれる等の連携がとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には家族や病院との連携を密に行い、回復状況等の情報交換に努めている。また、病院関係者との情報交換も積極的に行い、早期退院に向けて支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医と本人、家族、職員、特養看護師等、関係者と話し合い、本人や家族の希望に添えるよう支援している。また、本人や家族が納得、安心して終末期を迎えられるように随時、意思確認しながら取り組んでいる。	希望があれば看取りを行う体制にあり、実際に行ってきた。看取りの指針や同意書が整備されており、看取りの際は家族が宿泊できる環境である。重度化の過程で、家族と相談しながら必要であれば併設している特別養護老人ホームへの住み替えの支援も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は行っていないが、申し送り等で実践を想定した話題でシミュレーションしたり、事故発生時や緊急時の対応についてのマニュアルを作成しており、マニュアルの周知徹底と再確認をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は併設されている特養と合同で年2回利用者、職員と一緒に実施し避難経路の確認をしている。地元、町内会とも防災に関する協定書を取り交わしており、緊急時の協力体制も築いている。また、非常食も3日分備蓄して災害時に備えている。	年2回、日中、夜間想定防災訓練を行っている。コロナ禍のため地域住民の参加はないが、有事の際は協力できる体制にある。毎月1日に地震のシミュレーション訓練を行っている。	災害対策として、シミュレーション訓練だけでなく、風水害と併せ、実際の避難訓練として実施される事に期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の尊厳を無視した対応をする事なく、自己決定しやすく、分かりやすい言葉掛けに努めている。職員は個人情報や守秘義務について十分、理解している。	利用者本人の尊厳を尊重し、自己決定してもらうため分かりやすい言葉で話すよう努めている。利用者一人ひとりが大切にしていることや負の感情の事柄にも配慮した対応を実践している。個人情報の取り扱いについては、重要事項説明書で同意をもらっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、利用者個々の希望や思いをくみ取り、ミーティングで話し合っ職員 の意見を押し付けることなく、本人が自己決定できる場面作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時の体調や気持ちを尊重し、本人が発しているサインを読み取り、本人のペースに合わせた個別の支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が好む色やデザイン、こだわりのスタイルでその人らしい、おしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑で穫れた野菜を利用したり、利用者に聞きながら昔ながらの調理をしたり、利用者が好む献立で調理したりと工夫している。また、野菜や山菜の皮むきや食器拭きを職員と一緒にやっている。	職員が併設事業所の栄養士と相談してメニューを決めているが、希望があれば変更して食事を楽しめるようにしている。利用者と一緒に野菜の皮むきや下処理を行ったり、食器拭きを役割にしている利用者もいる。状態不良時は、少しでも食べてもらえるように食事形態を変更して提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みや状況を把握し、食事量や食事形態も個々に合わせて摂取できるよう対応している。水分量も毎日記録し脱水症にならないように気をつけている、栄養バランスは特養の栄養士の意見を参考にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、起床後、就寝前の口腔ケアを習慣化し、個々の状況に合わせて声掛け、見守り、介助等し、口腔内の清潔に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	毎日、個々の排泄チェックを行い、尿意のない利用者にも時間をみて尊厳を損なわないように声掛けや誘導で排泄を促し、失禁予防に努めている。	排泄チェック表を活用して個別に合わせてトイレ誘導をし、失禁が軽減したケースがある。夜間、ポータブルトイレを使用している方もあり、安心して排泄できる様に配慮している。状態変更に伴い、オムツ類を使用する際は、家族に料金も含めて説明している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄チェックにて排泄パターンを把握し、便秘気味の方には水分補給や乳製品、繊維質の多い食材を提供したり、運動を取り入れるなど個々に便秘対策に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	曜日などは決められているが、仲の良い利用者同士が一緒に入りたい場合やゆっくりと浸かりたい等、利用者のその日の希望を取り入れ入浴の支援をしている。	週2回午後に入浴の対応をし、入浴日以外は足浴を実施している。特浴での入浴が必要になれば、併設事業所で入浴できるよう協力体制がある。体調不良時は清拭と着替えで対応し、拒否する方には声がけを工夫して入浴できるように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調を考慮しながら日中の活動を促し、生活リズムを整えている。また、一人ひとりの生活ペースで自由に居室で休んだり入浴、足浴のリラクゼーション効果で心地よく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の効能や副作用等の説明書を個々のファイルに保管し、全職員が分かるようにしている。また、処方に変更があった場合は日報に記入し周知徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	意欲低下とならないよう、食器拭きや洗濯物干し、洗濯物たたみ、調理の下準備、野菜の収穫等、個々に合った役割を無理のないようお願いし、利用者の経験や知恵を発揮できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの気分や体調に合わせて、買い物や散歩、地域や近隣施設の祭りへの参加、家族と一緒に大型スーパーへ買い物外出を行っていた。現在、コロナ禍のため外出、買い物が困難となり、車から降りずに車内から景色を眺めるドライブ外出を行っている。	コロナ禍のため外出は制限している。今年は2回ドライブを実施し、近隣の公園や漁港を眺めて喜んでもらえた。季節に合わせた行事やゲーム大会を実施したり、利用者の誕生会は誕生日にお菓子を作ってお祝いし、楽しんで生活できるよう工夫されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自己管理されている方は、お金を数えたり、いつも身につけているという安心感を持っている。 また、おやつや日用品の購入見守り支援もしていたが、現在コロナ禍のため、おやつや日用品は代理購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの手紙や電話は、随時受付ている、利用者からの希望で電話をしたい時には電話できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い共有空間を整えるため、換気や空調の調整、エアコンや床暖での温度調整や加湿器での湿度調整を行っている。また、ストレスとならないような光や音を取り入れ、その時の季節に合わせた飾りつけや掲示物を展示する等工夫している。	自然の採光が取り入れられ、明るく過ごしやすい。ホールにはソファが設置されており、利用者同士でお互いに譲り合いながら、好きな所に座って落ち着いて過ごしている。廊下や玄関ホールには、利用者が作った飾りが飾られており、生活に活気が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の状態変化や利用者同士の関係性に配慮しながら、廊下に椅子を置いて仲間と談笑したり、一人で過ごす事が出来たりと自由な居場所作りの工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の居室には利用者が自宅で使っていた馴染みの物や家族写真等を持ち込んでいただけたよう家族と相談しながら、本人が落ち着いて過ごせるように工夫をしている。	居室には、ベッド、椅子、テーブル、床頭台、洗面所が設置されており、利用者の身体機能に合わせて、好みの配置がされている。自宅で使用していた生活用品や写真、テレビが持ち込まれており、利用者本人が居心地よく過ごせる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内は全てバリアフリーとなっており、身体機能の状態に合わせ、歩行している。また、利用者の認識違いや判断ミスを防ぐため、居室やトイレに目印を付け自立した生活が送れるように工夫している。		